

## ヨーロッパでのカヌー・カヤック強化合宿・研修の報告

栗本 宣和<sup>\*1</sup>, 野口 雄慶<sup>\*1</sup>, 磯本 えなみ<sup>\*1</sup>, 石田 裕也<sup>\*2</sup>, 前川 郁渡<sup>\*3</sup>

### Canoe kayak training camps and visits of university club in europe

Nobukazu KURIMOTO<sup>\*1</sup> and Takanori NOGUCHI<sup>\*1</sup>, Enami ISOMOTO<sup>\*1</sup>, Yuuya ISHIDA<sup>\*2</sup>, Fumito MAEKAWA<sup>\*3</sup>

<sup>\*1</sup> Faculty of Sports and Health Sciences, Department of Sports and Health Sciences

<sup>\*2</sup> Faculty of Engineering, Department of Electrical and Electronic Engineering

<sup>\*3</sup> Faculty of Engineering, Department of Applied Nuclear Technology

This report is about canoe kayaking training camps and visits in Europe: Hungary, Portugal, Spain. In Hungary conducted gym training, running and swimming at the club team: KSI. In Portugal, conducted paddling training mainly at the lake using the NELO training center. In Spain, visited several canoe / kayak club teams to deepen knowledges. Besides that, visited Porto, Lisbon and Tui and conducted city training.

**Key Words** : Canoe/Kayak, Training camp, Europe : Hungary/Portugal/Spain

#### 1. 実施目的

カヌーの競技力が高いヨーロッパにおいて、世界トップレベルの選手たちが行っている環境でトレーニングを行ったり、実際に練習に参加したりすることで、世界の国際競技力の高さを肌で感じ取ったり情報交換をしたり、選手自身の技術習得や体力強化にフィードバックさせることで競技パフォーマンス向上に繋げることが、本ヨーロッパ強化合宿および研修の実施目的である。また、海外の文化や風習に触れることで、生活習慣や街の様子、建築様式の違いなどを学ぶことで、今後の学生生活や社会において国際感覚さやその経験を活用することとした。

#### 2. 実施内容

実施方法について、さまざまな理由から、先発組と後発組の2班に分かれて実施した。主な理由として、指導者の採用および引率の関係、参加選手の状況、航空券の手配、外部からの参加者の予定、経費、また福井で数十年ぶりに見舞われた大雪への対応から、ふた手に分かれての出発となった。先発組は、2018年2月7日(水)から3月23日(金)までの45日間、後発組は同年2月24日(土)から3月23日(金)までの28日間の日程で、実施した。帰国に関しては航空機の関係で2班が異なる経路での移動であったが、ほぼ同時刻に関西国際空港に到着して、大学まで共に帰着した。先発組は、まずハンガリーの首都ブダペストに滞在して、総合型スポーツクラブチーム KSI : Kozponti Sport es Ifjusagi Sportegyesulet のカヌー・カヤック部門に所属して、筋力トレーニングや水泳トレーニング、ランニングなど陸上でのドライランドオン・トレーニングを実施した。その後2月18日(日)にポルトガルのモルタグアに移動して、約1ヶ月間水上でのパドリング・トレーニングを実施した。その途中2月26日(月)から後発組がポルトガルで合流して、3週間水上トレーニングに励んだ。ポルトガルにおけるトレーニングの休日を利用して、大学が有名な学園都市コインブラや、旧首都であるポルトへ市内研修に行ったり、リスボンで行なわれたサッカー(ベンフィカ 対 FCポルト)の試合観戦をしたりして、ヨーロッパの文化やスポ

\* 原稿受付 2019年3月29日

<sup>\*1</sup> スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科

<sup>\*2</sup> 工学部 電気電子工学科

<sup>\*3</sup> 工学部 原子力技術応用工学科

E-mail: kurimoto-golgo@fukui-ut.ac.jp

ーツに触れることで見聞を広めた。3月18日(日)までトレーニングを実施して、翌19日(月)には、カヌー・カヤックの競技艇製造量トップシェアを誇るNELO社の製造工場を視察した。その後、国境を越えたところにあるスペインのトゥイを訪れた。そこでカヌー・カヤックのツアーを提供したり用品を販売している友人のところを訪ねて、街のクラブチームを紹介・案内してもらった。翌日の20日(火)は、トゥイの自然公園を探索したり街並を散策したりした後、世界選手権のトップ選手が経営するレストランで会食をして、情報交換を行なった。同日に再び国境を越えてポルトガルのリスボンまで南下して、21日(水)は終日リスボン市内研修として博物館や教会を訪問した。22日(木)早朝にリスボン空港から2班に分かれて移動して、23日(金)に無事日本に帰国した。実施スケジュールの詳細は、Table1. にまとめた。

Table 1. Schedule during a training camp in Europe.

日程	先発組	後発組	備考	
2月7日(水)	関西国際空港に移動 〃 から出国	/	栗本が送迎	
	ハンガリー に入国 ブダペストにて合宿			
2月18日(日)	ハンガリー出国(ブダペスト) ↓ ポルトガル入国(リスボン) リスボン空港でコーチと合流 ホテルへ移動		飛行機で移動  レンタカーで ホテルへ移動	
2月19日(月)	ポルトガル モルタグア市 水上トレーニング開始			
2月24日(日)			福井から愛知に移動	公共交通機関 豊田市で宿泊
2月25日(月)			中部国際空港から出国 ↓ ポルトガル入国 ホテルへ移動	空港バスで移動  ホテルへは 送迎バス
			先発組と後発組が合流	
2月26日(火)	後発組も水上トレーニング開始			
3月18日(日)	水上トレーニング最終日			
3月19日(月)	カヌー・カヤック艇製造工場見学: NELO ポルトガル 出国		/	レンタカー
	スペイン 入国(トゥイ) クラブチーム見学: トゥイ			
3月20日(火)	トゥイ市内研修・昼食懇談会 スペイン 出国			
	ポルトガル 再入国			
3月21日(水)	リスボン市内研修			
3月22日(木)	早朝に空港へ移動 → ポルトガル 出国			タクシー
	モスクワ・ソウル経由	アムステルダム経由		
3月23日(金)	日本 入国(関西国際空港) 大学 帰着			学園車両

### 3. ハンガリーでのトレーニング

ハンガリーでは、首都のブダペストにある総合型クラブチーム KSI (カーイシ) : Kozponti Sport es Ifjusagi Sportegyesulet の 18 歳前後の男子グループに所属して、ジムでの筋力トレーニング、ドナウ川沿いでのランニング、ブダ地区の丘を駆け上がるトレイルランニング、それに KSI 本部にある室内温水プールでのスイミングなどの、陸上トレーニングに取り組んだ。ハンガリーは 11 月から 2 月までの間は水上練習を実施せずに、このような陸上でのトレーニングを徹底して行っていた。「ハンガリーの選手は、すべてのトレーニングにおいて意識レベルが高く、自分たちとの力の差を実感した。」と学生は感想を述べている。ハンガリーの選手が、オリンピックで連覇するなど国際大会で高いパフォーマンスを発揮しているのは、「幼いころから高い意識レベルでトレーニングを積み重ねてきているからだと思います。」との意見を加えていた。

滞在中に宿泊した宿は、ハンガリー剣道連盟のオフィスに併設された宿泊施設で、11 日間泊めていただいた。同連盟の強化部長の阿部先生には大変お世話になり、生活面全般をコーディネートしてもらい、市内での移動に関してや、衣食住に関するサポートを手厚くしていただき、学生ともども大変感謝している。

またトレーニング以外の時間には、同じ宿舎に滞在していたハンガリー在住の日本人学生に、“ハンガリーのお勧めスポット”などを紹介してもらって街歩きの参考にしたり、一緒に食事をするなど海外で活動する学生と交流して、大変充実した合宿となった。

ハンガリーでの滞在期間は、監督・コーチが引率できなかったにもかかわらず、ハンガリー剣道連盟の阿部氏を始め、クラブチームのヘッドコーチである Oláh Tamás 氏や、ハンガリー在住の日本人など、栗本が JOC 海外指導者研修制度で滞在中に交友関係があった関係者のおかげで、充実かつ安全に学生たちの強化トレーニングが実施できた。

### 4. ポルトガルでのトレーニング

ポルトガルでは、中部の学園都市コインブラから 40 km ほど東に位置するモルタグア市にある NELO トレーニングセンターにおいて、水上トレーニング、筋力トレーニング、ランニング、水泳トレーニングを行なった。宿泊したのは、MONTEBELO AGUIEIRA LAKE RESORT & SPA というトレーニングセンターに併設されたホテルで、先発隊が 30 日間、後発隊が 23 日間それぞれ滞在した。各国から多くのオリンピック選手がシーズン前の強化合宿として滞在しており、同じ空間で筋力トレーニングをしたり同じ会場で毎日食事を摂ることでたくさんの刺激をもらい、学生たちにとって世界のトップ選手から学ぶことが多くあった。

水上トレーニングにおいても、世界のトップ選手のテクニックやパワーのレベルの高さを肌で感じ取っていた。それらの有名選手は、常にストレッチや筋ほぐしなどトレーニング後における体のケアをこまめにしていたことも印象的であった。我々はシーズンを迎える前のトレーニングとして、1 ヶ月間で 550~600 km を漕ぐことを目標に、計画したトレーニングプログラムを毎日こなして行った。しかし日本を出国する前に福井でも豪雪に見舞われたが、ポルトガルでも例年のない天候不順で、気温の低い日と降雨が続いたため、暖かさを期待して合宿地を選定した予測に反する状況となった。



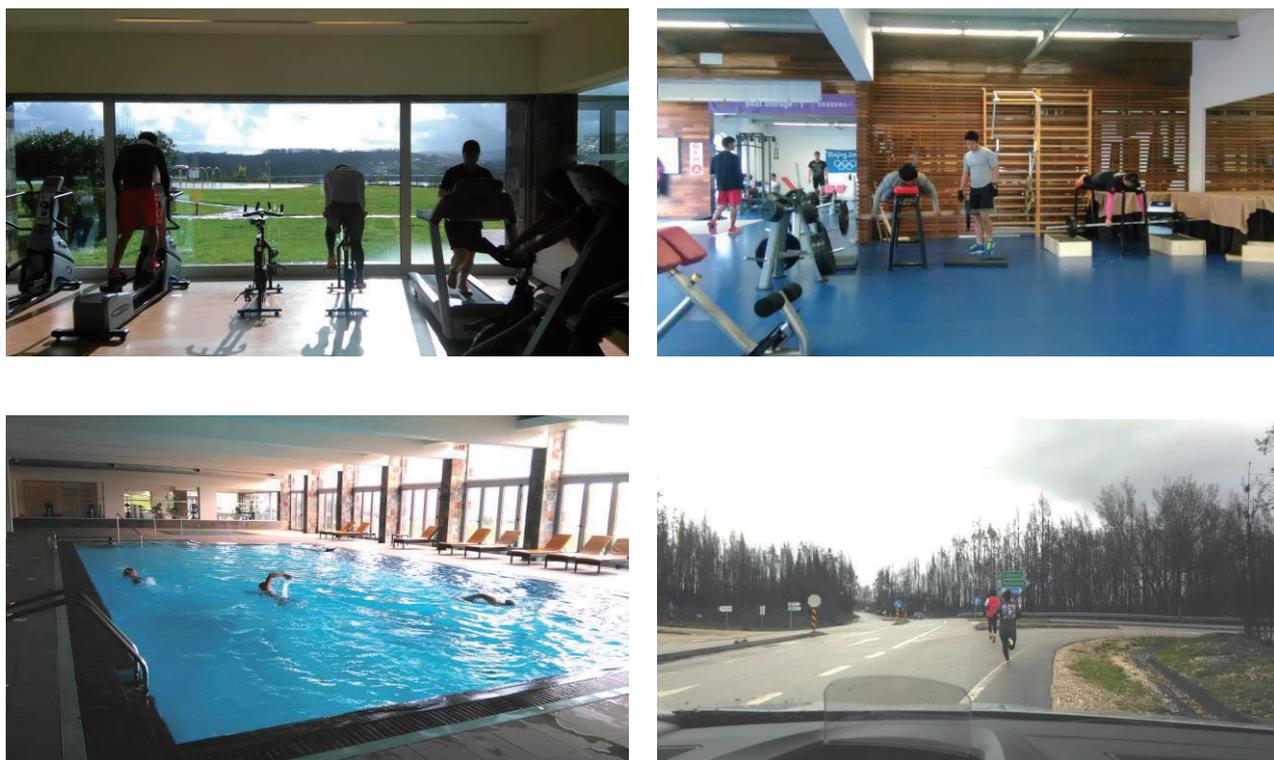


Fig 1. : Training at the NELO Training Center: Portugal

## 5. ポルトガル・スペインでの視察研修

ポルトガルでのトレーニングを終えた3月19日(月)に、ポルト近郊のカヌー・カヤック艇製造工場 (NELO) を見学した。学生たちは艇が製造される過程を目にしたことで、自分たちが普段使用している艇の構造などを知ることができた。工場内では、「塗装」、「貼る」、「乾燥」、「型抜き」、「削る」などの作業で分担されており、発注から完成まで工程ごとに流れ作業で製造が行なわれている様子を、間近で観察するよい機会となった。

その後さらに北上してして、ポルトガルの国境を越えてスペインに入ったところの街トゥイを訪れた。トゥイは、栗本がJOC:日本オリンピック委員会の在外研修中からの旧友で、カヌー・カヤックのツアーを提供したり、関連道具・用具の販売をしている Mercedes 氏にコーディネートしてもらい、街のカヌー・カヤック・クラブチームを視察・案内をもらった。ここでも世界トップレベルの選手たちが練習をする様子を見させてもらったり、クラブハウスなどのトレーニング環境を見させてもらった。トレーニングに使用している器具などは最新のものではなく、年季の入ったものも多く見られたが、世界選手権のメダリストを輩出していることを聞いて、学生たちは驚いた様子であった。翌日は、国立公園の巡礼地 Foto di Parque Natura Monte Aloia を案内してもらい、自然の森を探索したり、公園の資料館を見学した。またトゥイは、ポルトガルと川を1本隔てて隣接しており、国境の橋を歩いて渡り対岸 (ポルトガル) にある旧跡のお城を見学した。国境を歩いて越えることは滅多にない経験で、新鮮な感覚を体験することができた。

その後、世界カヌーマラソン選手権のメダリストが経営するレストランで会食をしながら情報交換をした。国際大会での高いパフォーマンスを維持しながら経営者としても毎日レストランのフロアーに立って接客をする経営者としての時間の使い方などの話を聞き、「忙しい中でも練習する時間を見つけて結果を残すのは大変難しいことであると思いますが、自分たちも真似しなければいけない姿勢だと感じました。」と学生たちにとって大いに参考になった。



Fig 2. : NELO factory (upper left), Tui canoe and kayak club(lower left),

Foto di Parque Natura Monte Aloia (right)

## 6. ポルトガルでの市内研修

練習がオフの日にポルトガル第2の都市ポルトや、第3の都市コインブラに行って市内研修を行なった。ポルトは街全体が世界遺産に登録されており、ドゥエロ川に架かる「ドン・ルイス1世橋」や歴史ある「サンフランシスコ教会」など有名で歴史的に意味を持つ建築物を目の当たりにしたことで、感動を覚えていた。またコインブラは、ヨーロッパ最古の大学である「コインブラ大学」の構内を見学するなど、学生で賑わう街の様子と、自分たちの生活環境である福井を照らし合わせながら散策をしていた。その他に、ベンフィカ対 FC ポルトのサッカーの試合をリスボンで観戦し、海外のスポーツ文化に触れることもできた。

帰国直前には、ポルトガルの首都リスボンの市内研修を行なった。リスボンには、サンタ・ジュスタのエレベータをはじめ、有名な教会や広場など歴史的に価値の高い建造物が多くあった。そんな中、「大航海時代」のモニュメントや「バスコ・ダ・ガマ」の像といった歴史の教科書で学んだワードにも触れることができた。そして我々カヌー・カヤックと同様の舟などに関する「海洋博物館」に行き、大航海時代から現在までの船の模型や地図、航海道具、船の実物、大砲、さまざまな動力エンジンなどを見ることができ、我々が乗っているカヌーの原型など共通する船の歴史を知る良い機会となり、血が騒いだ感覚にさえなった。それ以外に、ユーラシア大陸最西端の「ロカ岬」や、万国博覧会会場公園内に位置して世界人気水族館ランキング1位に輝く「リスボン水族館」も訪れた<sup>1)</sup>。



Don Luis I Bridge and Porto city with students



Coimbra University



Cabo da Roca



Lisbon Aquarium

Fig 3. : City training in Portugal

## 7. 諸経費

ヨーロッパ強化合宿研修に関わる必要経費は、航空券代、各国宿泊費、現地交通費、補食費などの合計金額が、先発組 55.5 万円、後発組 45 万円であった（詳細については参考資料の実施要項を参照）。これら概算以外に生活に関わる日用品購入や入場料なども発生した。参加した学生の中には、参加費が準備できなかった者がいたため、必要経費 22.5 万円と航空券変更手数料 2.5 万円の合計 25 万円を栗本が負担した。また引率教員である監督の経費は、合計 634,628 円であったが、予算の都合上 368,815 円は大学からの支払いができないとのことが事後に発覚したため、学生の参加費負担分 250,000 円と合わせて 618,815 円を栗本が自己負担した。

## 謝 辞

このヨーロッパ強化合宿研修を実施するに当たり、ハンガリー剣道連盟阿部氏、ハンガリーカヌー・カヤッククラブ KSI ヘッドコーチ Oláh 氏、スペイン Braca 販売店 Mercedes 氏には、多大なサポートをしていただき、心より感謝申し上げます。

参 考 資 料

福井工業大学カヌー部 春季 海外特別強化合宿 および 海外国際体験研修 実施要項																									
1. 趣 旨	①カヌー部の競技力向上を目的として、オリンピック出場を目指す学生部員の海外合宿を実施。 ②海外のクラブチームや用具製造メーカーと情報交換・連携し、国際経験の研鑽を積む。 ③海外での生活空間の中で、衣・食・住に関わる全ての国際経験を、今後の大学生活に生かす。																								
2. 実 施 目 的	海外に場所を移して強化合宿をすることで、世界トップのレベルを肌で感じ、国際経験を積み、今後のパフォーマンス向上に繋げる。																								
3. 期 間	【先 発】：2018年 2月 7日（水）～ 2018年 3月23日（金） 45日間 【後 発】：2018年 2月24日（土）～ 2018年 3月23日（金） 28日間																								
4. 渡 航 国	ハンガリー国（ブダペスト市）ポルトガル国（モルタグア市）スペイン国（トゥイ）																								
5. 行 動 計 画	2月 7日 日本出国 8日 ハンガリー入国 ～18日トレーニング（クラブチームK S I）、メーカー訪問 19日～3月19日 トレーニング（ポルトガル国 NELOトレーニングセンター） 3月19日～22日ポルトガル・スペイン研修 22日 ポルトガル出国 → 日本帰国23日																								
6. 訪 問 先	【ハンガリー】カヌー&カヤックナショナルトレーニングセンター、クラブチーム「K S I」 【ポルトガル】NELOトレーニングセンター 【スペイン】Tui カヌー・カヤッククラブ																								
7. 引 率 者	2名 カヌー部 監督 栗本 宣和 ・ コーチ ハンガリー人 コーディネーター ████████ 氏、(ハンガリー剣道連盟 強化部長)：受益者負担で雇用予定：ハンガリー																								
8. 参 加 者	【先 発】██████████・██████████・██████████（計3名） 【後 発】監督 栗本 宣和・██████████・██████████（計3名） コーチは就労ビザが取得でき次第、日本を出国																								
9. 諸 経 費	<table border="0"> <tr> <td>【先発】航空券代</td> <td>約 175,000 円</td> <td>【後発】航空券代</td> <td>約 150,000 円</td> </tr> <tr> <td>宿泊費ハンガリー</td> <td>約 30,000 円</td> <td>宿泊費ポルトガル</td> <td>約 250,000 円</td> </tr> <tr> <td>宿泊費ポルトガル</td> <td>約 300,000 円</td> <td>現地交通費</td> <td>約 30,000 円</td> </tr> <tr> <td>現地交通費</td> <td>約 30,000 円</td> <td>捕食費 他</td> <td>約 20,000 円</td> </tr> <tr> <td>捕食費 他</td> <td>約 20,000 円</td> <td></td> <td>約 450,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>約 555,000 円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※宿泊費には、1泊3食・借艇代・施設（ジム・プール）使用料・モーターボート使用料 を含む 通貨為替レートの変動により、価格が上下する場合があります</p>	【先発】航空券代	約 175,000 円	【後発】航空券代	約 150,000 円	宿泊費ハンガリー	約 30,000 円	宿泊費ポルトガル	約 250,000 円	宿泊費ポルトガル	約 300,000 円	現地交通費	約 30,000 円	現地交通費	約 30,000 円	捕食費 他	約 20,000 円	捕食費 他	約 20,000 円		約 450,000 円		約 555,000 円		
【先発】航空券代	約 175,000 円	【後発】航空券代	約 150,000 円																						
宿泊費ハンガリー	約 30,000 円	宿泊費ポルトガル	約 250,000 円																						
宿泊費ポルトガル	約 300,000 円	現地交通費	約 30,000 円																						
現地交通費	約 30,000 円	捕食費 他	約 20,000 円																						
捕食費 他	約 20,000 円		約 450,000 円																						
	約 555,000 円																								
10. そ の 他	引率の栗本は、入試業務と他の出張があるため2月24日からポルトガルにて合流予定。それまでの間は帯同コーチが学生引率をする。それに加えて、ハンガリーでは、日本から多数の大学・高校を受け入れているの阿部氏に、コーディネーターとして、受け入れや緊急時の対応などのサポートを依頼した。帯同コーチは、1月から合宿出発までの約1ヶ月間、福井において参加学生を対象に指導する。日程などは、飛行機チケット予約等の関係で、変更になる場合があります。 (尚、本合宿に、本学を受験希望の生徒：██████████が、参加を希望しており後発隊で合流する。)																								

引 用

- (1) 日本のあの水族館もランクイン！世界の人気水族館 TOP10 , <https://retrip.jp/articles/20851/?page=3>, (2019年3月25日閲覧)

(2019年4月26日受理)